



平成30年度国立市市民表彰 社会奉仕功労 尾林良子氏

～影の力となって人々に奉仕する～

一国立市赤十字奉仕団に入団したきっかけを教えてください。

子どもが小学校高学年になり、時間の余裕ができました。そんな時、関功初代委員長から赤十字の父アンリー・デュナンの話を聞き、入団することを決めました。デュナンは、ソルフェリーノの戦いでうめき苦しんでいる負傷兵を黙って見過ごすことができず、「敵・味方」の区別なく通りかかった人々や近所の婦人たちを集めて手当てをしました。このことがきっかけで、今日の赤十字が創設され、現在190ヶ国、日本では全都道府県が参加しています。

一国立市赤十字奉仕団の活動内容を教えてください。

奉仕団の活動は幅広く多岐に渡っています。災害地への義援金募集のほか、市内各種のイベントの救護員、高齢者施設にて洗濯物の整理や昼食作り、傾聴活動。立川献血センターを始め、市役所、一橋大学では献血の啓発活動、成人の日に20歳の献血PRをしています。また、国立市社会福祉協議会で開催しているふれあいスポーツの集いでは、健康スープ1,200食分を配布するなど様々な行事に参加し活動しています。国立市防災訓練には救急法、炊き出しなど行うほか、小学校、都立高校に救急法の指導にも伺っています。



一活動している中で、意識していることはありますか。

いつも地域のみなさんと共に歩み、行動することです。団員が活動したあと、ボランティアをしてよかったと達成感を持って帰ること。周りとの協調をもって活動し、常に赤十字の信条、影の力となって人々に奉仕すること。自分自身の健康に留意して、赤十字活動を支援している家族に感謝を忘れず、いつも笑顔で活動していくことです。

一活動をしていて印象に残っていることを教えてください。

三宅島が噴火した際、市からいち早く手伝いの要請があり、日本赤十字社からの救援物資をお渡ししたり、地域の方への相談相手をしました。泉町団地に入居しましたが、全く設備が調っていませんでした。若い女性がカーテンもなく着替えることができないと話を聞き、家に何うと、テーブルがなく床に新聞紙を敷いて食事をしているありさまでした。市からカーテン店や家具屋に連絡するとすぐに新品を用意してくださいました。また、自治会や各種団体、奉仕団員から日用品が山のように届き、災害に対する多くの人々の理解と優しさ、思いやりに感激しました。実際に、災害にあわれた人たちと直接話すことができたことが、最も心に残っています。

一今後の展望を教えてください。

高齢化社会となっている現在、若い人たちへ赤十字活動の理解と共感を持ってもらうこと。また、多発している自然災害を減災につなげていくこと。問題は多々ありますが、常に、赤十字の掲げる人道、博愛、の理念のもと、赤十字活動をしながら地域の方々と共に歩み、赤十字の信条「すべての人々の幸せを願い、影の力となって人々に奉仕する」を心に留め、団員一同活動していきたいと思っています。

私にとって、赤十字活動は人生後半の大きな指針となりました。私が赤十字の団員とならなかつたら、多くの人たちと出会うことはなかつたでしょう。たくさんの人々と交流できたことが私には一番大切な宝物です。

※本記事は、平成31年2月に行ったアンケートの内容を記事にしたものです。